

# 踏み跡 <My Mountains>

八ヶ岳	行者小屋から杣添尾根	No.160
-----	------------	--------

今年も冬山シーズン到来。一月から八ヶ岳の歩き残した主要な稜線を歩いてきたが、その一環として横岳から東に延びる「杣添(そまぞえ)尾根」を狙うことにした。

昭和45年11月25日

立川発 0時31分、平日なので列車はガラガラ。寝床は容易に確保できたが、車内の暖房が暑くてなかなか寝付けない。とは言ってもいつの間にか。。。。。

目が覚めたら富士見駅だった。危なく乗り越すところだった。

茅野 5時47分着。バスは6時10分発と時間効率はなかなかよらしい。

寒い！いつものように八ヶ岳の大パノラマが迎え出てくれた。バスの暖房の力を借りてまた一眠り。

美濃戸口 6時55分着。シーズン初っ端で体が慣れていないせいか寒く感じる。寒さ対策としてすぐに歩き始めることにした。山の雪の量は例年より少なく感じる。

順調なペースで、赤岳鉱泉着 8時50分。朝食と言おうか第一回目の昼食と言おうか、ラーメンにビスケットと野沢菜。食後は余裕をもって大同心のスケッチ。(右の写真)

北アルプスの上の雲の帯が気になる。明日の天気は下り坂だろう。

9時40分赤岳鉱泉を出発。馴れた道を中山乗越を越えて行者小屋へ10時に到着。

行者小屋は夏の間建新築したようで、きれいな建物に化けている。

最短時間での主稜線到達を目指して石室直登ルートを選択。

先行パーティの落石が多く閉口。アイゼンは不要と判断し、ピッケルだけで切り抜けることにした。



11時05分主稜線に到達。やはり想像通り雲量が増えてきたが、風はないしあまり寒くはない。冬の山へ来た緊張感がなく物足りない気がする。

11時35分三又峰の南面で、あまりの心地よさに日向ぼっこと昼寝。

目が覚めてふと時計を見ると、驚かなかれ11時40分で針が止まっているではないか。

ポケットから磁石を出して方角を確認し、太陽と影の位置とで時刻の推定。どう考えても13時に近い感じがする。

晴れているからこそこのようなことができるが、曇っていたら

り雨が降っていたりするとこの裏技は発揮できない。山では、特に今回のように単独行の場合「時計は大事な武器の一つ」である。

あわてて三又峰から杣添尾根に入り、下山に入る。(ここからは時計が使えないので時間感覚なしの歩行)

杣添尾根に入ってしばらくの間は予想以上の積雪量で、ところどころ安全を見計らいながらグリセードで時間を稼いだ。

杣添川北沢に下りて徒渉の後10分ほどで西武杣添小屋。時計のない緊迫した下りが続いたが、何とか無事に

## 踏 み 跡 <My Mountains>

佐久海の口駅に到着。駅舎の時計を見てひと安心、15時50分だった。  
小海線は待ち時間が少なく16時06分発、小湊沢でアルプス8号(17時31分発)に乗り換えて帰京。  
久しぶりの夜行日帰りでしかも最後の緊張した下りも手伝い、「疲れた」という実感の山旅だった。

以上